

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者、職員とも分かりやすい理念になっている 見やすい場所に掲示し、共有している。	「あんじゃねえ」の理念は職員に4項目の候補からアンケートを取って決めた理念で地域の方には解るこの地域の方言である。玄関と廊下に掲示し日々確認している。また、家族に対しては入居時と3ヶ月に1回発行される「かぞく広報」の中で紹介している。職員は「ここに居れば何も心配することは無い」の理念の持つ意味を良く理解し日々の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナということもあり、地域との交流は少ない。 散歩に出かけた際挨拶をしたり、季節の野菜や果物を頂いている。	開設以来自治会費を納め、行事案内もしていただき地域の一員として活動している。コロナ禍の状況が長引き、地域行事もコロナ前には戻っていないが、地域の防災訓練や地区の「どんど焼き」等には積極的に参加している。そうした中、短大生の職場実習の来訪があり、介護全般に渡り利用者と交流して過ごしている。また、日々の散歩時には近くの保育園児と挨拶を交わすとともに、年1回、保育園児が「手作りカレンダー」を届けてくれ利用者も喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事例検討会などに参加して発表する機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見等は職員に報告し、サービスの向上に活かしている。	今年、対面での運営推進会議が再開され、家族代表、地区総代、役場保健福祉課職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、偶数月に開催している。利用状況、年間計画、研修会報告、広報誌の発行について、ケア報告、防災訓練などを議題に意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。今後は運営推進会議の構成メンバーを増やし、多方面からの意見を頂き、地域に密着したホームとして活動を広げていきたいという意向を持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会に参加している。	役場保健福祉課には事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じて様々な事柄について連携を深めている。そうした中、村社会福祉協議会のケアマネジャーの来訪が時折あり、入所相談等で連携している。また、村内の6事業所の事業所連絡会議に出席し、意見交換等を行い交流を深めている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪して行われ職員が対応している。	

グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されているが、ドアの開閉に合わせてチャイム音で知らせるよう工夫されている。入居して間もないため帰宅願望の強い方がいるがホームの周りを散歩したりして納得していただいている。転倒危惧や夜間トイレに行く際の安全確保を図るべく家族と相談して人感センサーを使用している方がいる。年1回、身体拘束に関する勉強会を行い、特に「言葉遣い」について学び、拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。また、今年春には法人全体で「虐待防止」の講習会を受講し意識を新たにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の学習会に全員参加している。言葉による暴力や身体的な暴力がないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習機会は少ないと思う。個々の必要性に付いては契約者との話し合いは設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に説明し理解をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に御家族に伺っている。 家族会の際に意見や要望を伺う時間を設けた。	コロナ禍の状況が完全に収まっていない状況下、利用の感染対策として家族の面会は事前に連絡を頂き、玄関でアクリル板を挟み、少人数、短時間での面会を行っている。そうした中、ホームでの生活の様子は3ヶ月に1回発行される「かぞく広報」でお知らせするとともに、利用者一人ひとりの様子については担当職員が手紙として、毎月月初めに送られる請求書に同封してお知らせしている。合わせて面会時やスマートフォンのSNSを用いて日々の状況をきめ細かくお知らせして喜ばれている。また、コロナ禍が続き、以前行っていた家族会が中断されたままになっているので感染状況を見ながら再開したいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で聞く機会を設けている。 出された意見は検討している。	月1回職員の勤務状況を見ながら職員会議を行っている。施設長からの連絡事項、各種勉強会、カンファレンス、毎月交代で2名の職員がテーマを決めて行う「自己啓発」のスピーチ、意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。また、職員は年間目標を立て、それに従い施設長による個人面談と振り返りの場が設けられ、職員一人ひとりの業務改善やサービスの質の向上等について話し合い、スキルアップに繋げている。	

グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の作成時に職員の希望を聞いて反映している。質の向上に付いては、研修会等に参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で勉強会もリモート等に代わっているが、機会は確保し参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例検討会や事業所連絡会に参画している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている時、不安な事を取り除くような声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話対応で不安な事などを聞きながら努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画書作成後御家族に説明し理解していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として話を聞き教えてもらう事も多い。食事作り食器拭きなどできる事をしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会の制限をした時もあったが、良い関係を築く努力はしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を行っているが、入所後に途切れてしまうことが多い。	コロナ禍で、友人、知人等の面会は自粛している。日用品等欲しい物については家族に連絡して届けてもらったり、職員が馴染みの店に出掛け買い物をして渡している。年末に向け今年も手作り年賀状を家族に発送する予定である。	

グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が合いそうな利用者の席を近くにしたり、皆で楽しめるようなレクリエーションなど努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は御家族とは疎遠になってしまっているのが現状です。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や御家族から話を聞いたり、生活の中から希望や意向を見つけ出し検討している。	殆どの利用者は言葉のキャッチボールが出来る状況であり、提案に対する反応から意向を受け止めるようにしている。そうした中、言葉での意思表示難しい利用者があるが、何かやる時には必ず声掛けを行い、「笑顔」等の表情より意向を受け止めるようにしている。また、耳の不自由な利用者については職員が利用者同士の間に入り、会話が進むように努めている。日々の気づいた言動等は個人記録に纏め情報を共有し、出勤時に確認し利用者の希望に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の記録を頭に入れて接する努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録を記載した連絡帳で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれ利用者を受け持ち、課題や意見等を出し合い検討している。	職員は2名の利用者を担当し、家族との連絡、必要な物の管理、プラン更新時の見直し等を行っている。家族には月1回の手紙で様子を知らせ、面会時等に希望を聞いている。月1回のカンファレンスの席上意見を出し合い、モニタリングも行い、ケアマネジャーがプラン作成を行っている。入居時は家族から聞いた情報を基に3ヶ月間のプランを作成し、様子を見て6ヶ月のプラン作成に繋げている。そうした中、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を共有している。		

グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士で話し合ったりしているが、家族の状況までは把握できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできても、それ以上の事が出来る機会を作る事は難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度定期健診を受けている。何かあった時は連絡をし、受診や往診を行っている。	入居時に希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月1回の往診を受けており、緊急時は24時間対応となっている。また、常勤の看護師が2名勤務しており、利用者の日々の健康管理を行い、合わせて医師との連携を図り、万全な医療体制を整えている。歯科については必要に応じて協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が従事して適切な支援は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換や早期退院に努めている。病院関係者との関係づくりは行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、御家族に確認を行っている。 状況が変わるたびに御家族や医師と話し合いを行っている。	重度化・終末期に対する指針があり利用契約時に説明して同意書にサインを頂いている。合わせて重度化した際の対応や終末期の医療対応についての事前調査書にもチェックをしていただき、提出していただいている。入浴ができなくなったり食事が摂れない状況となり終末期を迎えた時には、家族と共に医師の元に出向き話し合いを行い、家族の意向を確認後、改めて看取り同意書にサインを頂き、医師の指示の下、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に1名の方の看取りを行い、コロナ禍ではあったが家族には居室で最期の時を共にしていただき感謝の言葉を頂いている。看取り中は職員が頻りに居室に伺い、甘い物をガーゼに湿らせ口に含ませたりするなどできる限りの支援に取り組んでいる。看取り後は看護師を中心にカンファレンスを開き、家族からの感謝の言葉を伝えたりして次回に繋げている。	

グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が従事しているので、適切な指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が参加できるよう避難訓練を行っている。 地域の方に訓練を見学していただいた。 地域の方々に緊急時のボランティアを依頼している。	9月には職員全員が参加できるように、勤務状況に合わせて、また、職員同士の組み合わせを考え、4回に分けて火災、地震、大雨想定避難訓練を行っている。利用者は防災頭巾、職員はヘルメットをかぶり、1次避難で外へ移動し、2次避難では近くのバス停まで移動しての訓練を行っている。合わせて防災会社の来訪もあり、「火災報知機」「スプリンクラー」「消火器」等の防災機器の点検も行っている。また、9月初旬に行われた村の防災訓練にも積極的に参加している。更に、スマートフォンのSNSを用いた緊急連絡網の訓練も定期的に行っている。備蓄として「水」「食料」「発電機」「カセットコンロ」等が準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや大きな声を出さないように気を付けている。 気が付いたことは会議等で報告し、共有している	言葉遣いには特に気配りをし、人生の先輩に対し尊敬の気持ちを持ち、丁寧な言葉で対応するよう徹底している。不適切な言動等に気づいた時にはその場で話し合い、気持ち良く過ごしていただけるようにしている。また、耳の不自由な方に対しては近くで、ハッキリ、ゆっくりと話しかけるように努めている。また、トイレ介助等、他の方に聞かれたくない話はできるだけ小声でするように徹底している。呼び掛けは苗字を「さん」付けで呼び出し、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き安心できるようにと思っている。表情から来るものも大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に寄り合いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類もその人に合ったお洒落な衣類を選んでいる。		

グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを手伝ってもらっている。 好きな物や食べたい物等希望を聞いている。 一人ひとりに合った食事の形態を提供している。	自力で摂取できる方が三分の二強、全介助の方が若干名という状況である。献立は食事担当職員が冷蔵庫の中の食材を確認の上、前の献立表も確認し、また、ダブらないように意識して、利用者の希望も聞きながら家庭的な料理を中心に出来立ての物を提供している。利用者のお手伝いについては力量に合わせて「野菜の下処理」「盛り付け」「食器拭き」等に参加していただいている。食べることの楽しさに注力し、季節に合わせ花見には「特製弁当」、土用の丑の日には「鰻」、お彼岸には「おはぎ」、12月には「五平餅」、クリスマスには「ちらし寿司」等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や力を見ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない方は介助しながらしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握に努めている。 トイレでの排泄を心掛けているが立位等が難しくなり、おむつ使用になる方もいる。	一部介助の利用者が三分の二強、全介助の方が若干名という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、定時の誘導とともに排泄表を参考に様子を見ながら早めにお誘いして気落ち良く過ごしていただくようにしている。排便については3日間ない場合にコントロールを行い、お茶を中心に1日1,000cc以上の水分摂取に取り組みスムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取ってもらったり、便秘にならない様に服薬の管理を職員全体で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に希望を聞いている。 安心して気持ち良く入浴できるよう支援している。	全利用者が何らかの介助を必要としている。広い浴室にはリフト浴が設置されており、1人30～40分位時間をかけて、ゆっくり楽しみながら入浴をしている。現在、入浴拒否の方はなく、週3回、入浴を楽しんでいる。入浴剤を使用したり、「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望に沿って休憩してもらっている。 疲れ、体調の悪い方にも休憩の支援をしている。		

グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体で連絡ノートを見ているので、変わった事なども理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	かつてしていただろうと思われる家事などの役割をしてもらっている。気分転換ができる散歩等に誘っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナということもあり、外出の機会は減っている。 天気の良い日は近所に散歩に出かけている。	室内では自力歩行の方が多いが、外出時には、手引き歩行の方が若干名で、大半の方が車いす使用という状況である。天気の良い日にはホームの周りや近隣を散歩している。コロナ禍が長引き、以前の様な外出が出来ない状況が続いているが、5月8日の5類への移行を受け、感染対策を取った上で密にならないような時間帯と場所を選び、村内の桜や紅葉の名所にドライブを兼ねて出かけている。また、月1回は小人数に分かれ、村内の自宅近くまでドライブに出掛け外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に金銭が必要と思う利用者は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は有った時は繋いでいるが、希望をする利用者は居ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔にしている。 季節の花や利用者の作品を飾っている。	ホームを囲むように季節の花々が咲き誇る庭があり、家庭菜園と共に利用者の寛ぎの場となっている。玄関を入ると季節に合わせた花々が飾られており来訪者を迎えてくれる。廊下の壁には防災用のヘルメットと利用者が着用する防災頭巾が掛けられており、防災意識の高さが感じられた。共用部分は十分な広さが確保されており、掃除も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーがあり思い思いに過ごしている。 ゲーム等は気の合う同士でしている。		



グループホームかぞく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきてもらっている。 御家族の写真や手紙を飾っている。	居室は掃除が行き届き、清潔感が漂っている。広い整理戸棚が設けられ、衣装ケース等も置かれ、整理整頓が行き届いている。また、居室内にはテレビや家族の写真、ぬり絵等の自分の作品、敬老会や誕生日に職員から送られたお祝い色紙等に囲まれ、思い思いの日々を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには分かり易いように大きな字で貼り紙がしてあったり、危険と思うような物は無く安全な環境になっている。		